

# 令和2年度 若松原中学校 学校評価書

※ 網掛けのない部分が評価計画，網掛けの部分が評価結果を受けて記入する。

## 1 教育目標（目指す生徒像含む）

### （1）基本目標

人間尊重の精神を基盤として，高い知識と豊かな心，たくましさを身につけ，地域社会や国家，世界に広く目を向けた人間を育成する。

### （2）具体目標（目指す生徒像）

- ① 自ら学ぶ生徒
- ② 心豊かな生徒
- ③ たくましい生徒
- ④ 視野の広い生徒

## 2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

### テーマ 「あたたかい学校，活力のある学校，人の集まる学校」

生徒一人ひとりを目指す生徒像に近づけるためには，地域学校園の小中学校，家庭，地域が連携しながら，それぞれの力を発揮していくことが重要である。本校がその核としての役割を自覚し，関わる人々の希望となれるよう，目指す学校像（3つの柱）を掲げる。

- ・ 明るいあいさつや花と緑にあふれ，互いに認め，励まし，称え合える，あたたかい学校
- ・ 地域社会や将来を見据え，子どものよさが十分に活かされる，活力のある学校
- ・ 生徒や教職員が誇りに思い，地域のコアとなり，地域に愛される，人の集まる学校

## 3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

### （1）あたたかい学校

- ・ 心の教育，望ましい人間関係づくりを図る
- ・ 学びやすい，生活しやすい環境を整備する
- ・ 花と緑を大切にしたい潤いある環境を整備する
- ・ 教職員の資質向上と健康管理に努める

### （2）活力のある学校

- ・ 学業指導の充実に努める
- ・ 積極的な生徒指導を推進する
- ・ 特別支援教育の視点を十分に生かす
- ・ 体力・気力の向上と健康教育を推進する

### （3）人の集まる学校

- ・ 生徒が楽しいと感じる学校づくりに努める
- ・ 地域の人材，資源を活用した教育を推進する
- ・ 職員が働き甲斐のある職場づくりに努める
- ・ 地域活動や災害時避難場所として活用する

#### 【若松原地域学校園教育ビジョン】

#### 「つなげよう学び きたえよう心と体 共にのびようWGS学校園」

9年間の学校教育にかかわる教職員が，その思いと責任を共有し，連携して児童生徒の発達段階に応じた一貫性のある指導を継続的に実践する。

## 4 教育課程編成の方針

新しい時代の到来を見据え，子どもたちが地域や国家・世界とのつながりの中で生活していることを自覚し，広い視野で物事を見て，考え，判断し，行動しようとする意欲と態度をもてるよう，教育課程と指導体制を工夫する。

- （1）日本国憲法，教育基本法，学校教育法及び学習指導要領の関係法令，及び県教育行政基本方針，市教育委員会管理運営規則，市学校教育スタンダードの示すところに従って編成する。
- （2）地域や学校の実態を踏まえ，生徒の心身の発達段階や特性を十分考慮しながら，人間として調和のとれた育成を目指して特色のある教育課程を編成する。
- （3）市の小中一貫教育の趣旨を生かし，学校教育全般にわたる教育活動の充実に努め，適切な運用が図れるよう配慮して編成する。

5 今年度の重点目標（短期的視点）※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

<p>【 学 校 運 営 】～教育目標の達成を目指すチーム学校づくり～</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒や家庭、地域、関係機関等と学校教育目標や学校経営の理念を共有し、その達成に向かう集団づくりの推進に努める。</li> </ul> <p>○教職員が一丸となって学習指導や生徒指導にあるとともに、業務遂行の効率化を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校の公開や情報発信を積極的に行いながら、地域のコアとして愛される、開かれた学校づくりの推進に努める。</li> </ul> <p>【 学 習 指 導 】～子どもが意欲的に取り組む授業、学びに向かう集団づくり～</p> <p>○主体的、対話的で深い学びを実現するための授業改善に努める。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の学習意欲の向上を図るための教材、教具の工夫改善に努める。</li> <li>・学力の定着のために、家庭学習の習慣化と質の向上を図る。</li> </ul> <p>【 児 童 生 徒 指 導 】～ともに成長できる集団づくりと自己指導能力の育成～</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・共に課題に立ち向かい、互いに認め、励まし、称え合うことで、自他共に成長できる集団づくりを推進する。</li> <li>・自ら考え、判断し、責任を持って実行できる自己指導能力の育成・向上を図る。</li> </ul> <p>○全教職員の連携により、生徒一人一人に寄り添い、自己肯定感（自分のよさに気づく）、自己有用感（活かそうとする）をはぐくむ教育相談に努める。</p> <p>【健康（体力・保健・安全）】～強い体、折れない心、健康的な生活を目指して～</p> <p>○基礎体力の向上と粘り強く取り組む意欲を養うための指導方法を工夫改善する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自他の生命や心の健康を大切にし、安全で豊かな生活を送れるよう、全教科領域でカリキュラムマネジメントを推進する。</li> <li>・防災教育を推進し、危機に対応できる能力の育成を図る。</li> </ul>
--

6 自己評価（評価項目のAは市共通、Bは学校独自を示す。）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

※「主な具体的な取組」の方向性には、A拡充 B継続 C縮小・廃止、を自己評価時に記入する。

項目	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価
指導する生徒の姿	A 1 生徒は、進んで学習に取り組んでいる。 【数値指標】 評価項目A 1の生徒の肯定的回答が85%以上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・探究型の授業や言語活動の充実を図り、生徒一人一人が主体的に取り組むような授業改善を進める。</li> <li>・学習方法の指導を充実させ、家庭学習に進んで取り組ませる。</li> </ul>	B	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の肯定的回答は91.8%で、数値指標を上回っている。昨年度の88.3%から3.5ポイント向上した。</li> </ul> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・目標に即した「学習の振り返り」を行い、主体的に学習へ取り組めたか評価させる。</li> <li>・学習の計画や見通しを立てさせ、家庭学習に進んで取り組ませる。</li> </ul>
	A 2 生徒は、思いやりの心をもっている。 【数値指標】 評価項目A 2 A 11の生徒の肯定的回答が85%以上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・道徳の授業において、思いやりについて深く考える場面を設定するとともに、教育活動全体を通して思いやりの心を育む。</li> <li>・福祉教育の充実を図り、障害をもった方や高齢者などへの思いやりの心を育てる。</li> </ul>	B	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・両項目とも生徒の肯定的回答は87.8%で、数値指標を上回っている。昨年度から1.0ポイント伸びた。</li> </ul> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小中連携しての道徳教育を地域学校園で積極的に推進する。</li> <li>・命の授業・高齢者体験・福祉体験などの継続、充実を図り、思いやりの心を育む。</li> </ul>
	A 3 生徒は、きまりやマナーを守って、生活をしている。 【数値指標】 評価項目A 3の生徒の肯定的回答が85%以上	<ul style="list-style-type: none"> <li>○家庭や地域に生徒の様子を理解していただくこととルールや法律を遵守する判断力と行動力が身につくように協力を要請する。</li> <li>・日常的な心の教育のさらなる充実と、教科となった道徳の時間の指導の改善を図る。</li> <li>・生活マナー等においては、学校生活のあらゆる場面でその都度指導していくとともに、家庭や地域へ協力を要請していく。</li> </ul>	B	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の肯定的回答は86.7%で数値指標を上回っている。</li> </ul> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍における新しい生活様式やそれに関わるマナーの定着に向けて、生徒会活動等を通して、主体的に生徒が守れるような取り組みができたので、継続する。</li> <li>・きまりやマナーを守ることの必要性について、道徳や学級活動等を通して継続的な指導を図る。</li> </ul>

<p>A 4 生徒は、時と場に応じたあいさつをしている。</p> <p>【数値指標】 評価項目 A 4 の生徒の肯定的回答が 90%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業開始終了時の「語先後礼」のあいさつの拡大を図る。</li> <li>○地域学校園での生徒会のあいさつ運動を通して、リーダーの育成を図る。</li> <li>・PTA 及び地域協議会と連携した「あいさつ運動」や登下校指導を通して、地域との結びつきを強め、地域全体であいさつが飛び交う雰囲気作りを中学校から発信していく。また、地域社会の一員であるという自覚を持たせ、地域のために協力していく心を育てていく。</li> </ul>	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の肯定的回答は 94.4%で、昨年度よりも上昇し、数値指標を上回っている。</li> </ul> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業での「語先後礼」について、あいさつ週間を適宜設けて、生徒と職員の意識の向上を図った。その結果、生徒のあいさつのしかたは良くなってきたため、継続する。</li> <li>・今後は生徒同士や生徒職員間のあいさつだけでなく、来校者や地域の方へのあいさつを向上させていく。特に大人から積極的にあいさつすることを周知する。</li> </ul>
<p>A 5 生徒は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 評価項目 A 5 A 7 の生徒の肯定的回答が 80%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新学期の始めに目標を立てさせ、学期末に評価を行う。</li> <li>・学習や部活動、学校行事など目標をもって取り組ませ、生徒同士がお互いに励まし合いながら、より高い目標に向かって努力する態度を育てる。</li> </ul>	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の肯定的回答は 84.1%で数値指標を上回っている。</li> </ul> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・節目ごとに、生徒に目標を立てさせ振り返らせることを継続して実施する。</li> <li>・授業や生活面、部活動において、乗り越えることが少し困難な場面をつくり、達成させるなど、スモールステップで成長できる場を設定する。</li> </ul>
<p>A 6 生徒は、健康や安全に気を付けて生活している。</p> <p>【数値指標】 評価項目 A 6 の生徒の肯定的回答が 80%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保健体育委員会を中心に、昼休みの運動を呼びかける。</li> <li>・うがい、手洗いなど進んで行わせ、風邪等の予防に努めさせる。</li> <li>○地域学校園内で連携を図りながら、食育の充実を図る。</li> <li>・給食指導、学級活動等で栄養のバランスが大切であることを理解させるとともに、その実践が健康な生活につながることを継続して指導いく。</li> <li>・避難訓練や交通安全指導等で危険回避能力や判断力を養う。</li> <li>・毎月行う安全点検を教職員と生徒が一緒に行うことで、生徒の安全管理への意識づけを図る。</li> </ul>	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の肯定的回答は 92.0%と、数値指標の 80.0%を大きく上回ってはいるが、昨年度の生徒肯定率と比較すると、1.0ポイント下がっている。</li> </ul> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナウィルス感染症対策を行いながらも、生徒が基礎体力の向上に取り組めるよう、授業や部活動の実施方法を工夫する。</li> <li>・栄養のバランスが大切であることを理解させ、地域学校園と連携を図りながら、給食指導の充実を図る。</li> <li>・避難訓練や交通安全指導、安全点検などの充実を図り、危機対応能力の育成を図る。</li> </ul>
<p>A 7 生徒は、夢や目標をもって、社会に貢献できるよう努力している。</p> <p>【数値指標】 評価項目 A 5・A 7 の生徒の肯定的回答が 80%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○地域学校園内で発達段階に応じたキャリア教育を系統立てて行う。</li> <li>・「社会人講話」や「宮チャレ」での体験を生かして、働く意味を各自で考えさせる。</li> <li>・キャリアパスポートを活用し、将来に向けた自分像を描き、目標をもって学校生活を送れるようにさせる。</li> </ul>	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生徒の肯定的回答は 84.1%で、数値指標の 80%を 4.1ポイント上回っているが、昨年度より 1.4ポイント下降している。</li> </ul> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・キャリアパスポート等を活用し、地域学校園で9年間のキャリア教育の充実を図る。</li> <li>・宮チャレやボランティア活動などの体験を通して「視野を広く」を合い言葉に地域や社会へ貢献する態度を育てる。</li> </ul>
<p>A 8 生徒は、英語を使ってコミュニケーションしている。</p> <p>【数値指標】 評価項目 A 8 の生徒の肯定的回答が 80%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○小中で一貫して、英語のコミュニケーションスキルを習得させる。</li> <li>・英語の授業に生徒同士やALTと英語を使って交流する学習を多く取り入れる。</li> <li>・身近な場面で使える会話例を指導する。</li> </ul>	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・肯定的回答は生徒 82.1%で、数値指標を上回っている。</li> </ul> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・英語の授業で、生徒同士、生徒と教師また、ALTとの会話の機会を増やし、英語での対話活動を取り入れ、英語を使う場面を多く設ける。</li> </ul>

<p>A9 生徒は、宇都宮の良さを知っている。</p> <p>【数値指標】 評価項目A9の生徒の肯定的回答が80%以上</p>	<p>・社会科や総合的な学習の時間で地域や宇都宮の学習を行い、他市と比較しながら、宇都宮の良さを発見させる。</p>	<p>【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は75.3%で、数値指標を下回った。教職員は66.7%で20.9ポイント伸びた。</p> <p>【次年度の方針】 ・教職員自身が宇都宮市の良さを学ぶとともに、総合的な学習の時間の「宇都宮学」を継続して実施する。 ・社会科を始め、各教科学習において宇都宮に関する話題を提供し宇都宮の良さを発見する機会を作る。</p>
<p>A10 生徒は、ICT機器や図書等を学習に活用している。</p> <p>【数値指標】 評価項目A10A25の教職員の肯定的回答が80%以上</p>	<p>・主に技術の授業や総合的な学習の時間などにおいてインターネット等を活用する。</p> <p>・図書館利用のガイダンスを全学年で年1回以上行い、生徒が学習に活用しやすいようにする。</p> <p>・ICT機器（タブレット型端末、デジタル教科書、デジタルカメラ等）の活用方法について啓発を行う。</p>	<p>【達成状況】 ・肯定的回答は教職員81.3%で数値指標を上回っている。</p> <p>【次年度の方針】 ・ICT機器を使った授業を公開してもらうなど職員研修の機会を設け、1人1台設置された端末を全ての教職員が効果的に利用できるようにしていく。 ・図書館司書と連携し、図書室を利用した学習活動のモデルや授業で活用できる図書を紹介し、図書の利用を促す。</p>
<p>A11 生徒は、高齢者に対する感謝やいたわりの心をもっている。</p> <p>【数値指標】 評価項目A2A11の生徒の肯定的回答が80%以上</p>	<p>・敬老の日に行われる地域の敬老会に、生徒が積極的に参加できるようPRを行い、高齢者に対する感謝やいたわりの態度を育てる。</p> <p>・道徳の授業において、高齢者への思いやりを育てる題材を取り入れたり、地域へのボランティア活動を通して、高齢者と接する機会をつくったりして、感謝といたわりの心を育む。</p>	<p>【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は87.8%と数値指標を上回っている。また、教職員は89.6%、保護者は85.9%と高い評価であった。</p> <p>【次年度の方針】 ・道徳の授業を中心に高齢者に対する感謝といたわりの心を育むとともに、学校行事や生徒会活動において、高齢者と接する機会をつくる。</p>
<p>A12 生徒は、「持続可能な社会」について、関心をもっている。</p> <p>【数値指標】 評価項目A12の教職員の肯定的回答が80%以上</p>	<p>・様々な教科の授業において、エネルギー、資源、防災、感染症の問題を取り上げ、生徒たちに議論させる。</p> <p>・校内の掲示コーナーに環境問題を啓発するようなポスターやチラシを貼るなど生徒の関心が高まる環境をつくる。</p>	<p>【達成状況】 ・教職員の肯定的回答は68.8%で、前年度から39.0ポイント伸びたものの目標を下回った。</p> <p>【次年度の方針】 ・総合的な学習の時間を中心に、社会科、国語科、理科、保健体育、技術家庭科などの教科学習においても「持続可能な社会」について取り上げ、考えさせたり議論させたりする機会を作る。</p>
<p>A13 教職員は、特別な支援を必要とする生徒の実態に応じて、適切な支援をしている。</p> <p>【数値指標】 評価項目A13の教職員の肯定的回答が80%以上</p>	<p>・教育相談を充実させ、生徒一人一人の困り感の把握に努める。</p> <p>・特別支援教育校内支援委員会や特別支援教育部会において特別な支援を要する生徒について共通理解を図り、適切な対策を講じる。</p>	<p>【達成状況】 教職員の肯定的回答は100%(6.2ポイントアップ)であり、数値指標80%を20ポイント上回っている。</p> <p>【次年度の方針】 学年や特別支援教育部会などを活用して、情報共有を徹底するとともに、組織力を生かした対策を立てて実践する。</p>

目 指 す 学 校 の 姿	<p>A14 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。</p> <p>【数値指標】 評価項目A14の生徒の肯定的回答が90%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎日の校内巡回やスタンダードダイアリーの確認、定期的な教育相談やいじめ調査等を活用し、いじめへの早期対応や早期発見・未然防止に努める。</li> <li>・学校のいじめ対策について、保護者会やホームページ、学年通信等、あらゆる機会を利用して周知していく。</li> <li>・いじめの問題は、学校、家庭、地域及び関係機関が連携して取り組むべき問題であることを機会あるごとに啓発していく。</li> </ul>	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の肯定的回答は95.6%であり、数値指標を上回った。また保護者の肯定的回答率は昨年度よりも6ポイント上昇した。</li> </ul> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・年5回のアンケートに加えて、各学年でいじめに関する授業や集会を、複数回実施した。</li> <li>・生徒指導通信や学年通信、ホームページを通して周知することができた。次年度より生徒が主体的に活動できるような内容を考え、啓発していく。</li> </ul>
	<p>A15 教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。</p> <p>【数値指標】 評価項目A15の生徒の肯定的回答が80%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1日休んだら電話連絡、2日休んだら家庭訪問の原則を守り、いきしぶり等の早期対応を図る。</li> <li>・生徒同士がお互いを認め、励まし合える学級の雰囲気作りに努める。</li> <li>・学習室(別室)の環境整備と学習支援の充実を図る。</li> </ul>	<p>【達成状況】</p> <p>生徒の肯定的回答は94%(2.3ポイントアップ)であり、数値指標80%を14ポイント上回っている。</p> <p>【次年度の方針】</p> <p>不登校や別室登校になる前の対策や、行き渋りが見られた場合の早期対応をしっかりと行う。</p>
	<p>A16 教職員は、外国人児童生徒等の実態に応じて、適切な支援をしている。</p> <p>【数値指標】 評価項目A13A16の教職員の肯定的回答が80%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国際理解や異文化理解の教育の推進を図り、違った習慣や考えをもった生徒へ理解を示す態度を育てる。</li> <li>・日本とは違った思考にも寛容に対応し、生徒の実態に応じた配慮を行う。</li> <li>○地域学校園内や他区から転入学してくる外国人生徒の情報を迅速に集め、登校初日から対応できるような校内体制を作れるようにする。</li> </ul>	<p>【達成状況】</p> <p>教職員の肯定的回答は100%(6.2ポイントアップ)であり、数値指標80%を20ポイント上回っている。</p> <p>【次年度の方針】</p> <p>日本の文化や習慣にスムーズに適應できるように、生徒の実情に合わせて必要な支援を行う。</p>
	<p>A17 学校は、活気があり、明るくいいきとした雰囲気である。</p> <p>【数値指標】 評価項目A17の生徒の肯定的回答が85%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・居がいのある学校をめざし、学校行事等生徒が主体的に活動できる場をより多く設定し、自尊感情を育成する。</li> <li>・学校行事や生徒会活動の目標や趣旨を十分に理解させ、お互いに励まし、認め合う集団づくりを実践していく中で、生徒一人一人が達成感や自己肯定感を得られるよう諸活動を推進していく。</li> </ul>	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の肯定的回答は87.1%と数値指標を上回っている。</li> </ul> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学級や部活動、生徒会活動等で生徒が活躍できるさまざまな場を設定し、自己肯定感と所属感を高める。</li> <li>・ホームページや便りなどで、活動の様子を保護者や地域の方にさらにこまめに発信していく。</li> </ul>
	<p>A18 教職員は、分かる授業や生徒にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。</p> <p>【数値指標】 評価項目A18の教職員の肯定的回答が85%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○授業のねらいや身に付けたい力を示し、振り返りを行い、学力の定着を図る。</li> <li>・教職員が互いに研鑽する機会を充実させる。</li> <li>○習熟度別学習やTTなど、指導形態を工夫し、個に応じたきめ細かな指導を行う。</li> </ul>	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員の肯定的回答は97.9%で数値指標を上回っている。また、生徒の肯定的評価も3.1ポイント上昇した。</li> </ul> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度実施できなかった一人一授業による授業力向上研修を実施し、教職員全体の授業力向上を推進する。</li> <li>・授業の振り返りを充実させ、授業における指導と評価の一体化を進める。</li> </ul>

<p>A 19 学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 評価項目 A 19 の教職員の肯定的回答が 80%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・SCやMS, かがやきルーム指導員に週 1 回開催する教育相談部会に参加してもらい連携を図る。</li> <li>・地域コーディネーターと地域連携教員の連携を密にし、信頼関係を構築しながら業務を遂行する。</li> <li>・かがやきルームを活用し、生徒への学習支援を促進する。</li> </ul>	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員の肯定的回答は昨年度の 97.9%と同値となっている。100%に近く、数値指標を大きく上回っている。</li> </ul> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・SC の専門的知識を生かしたり、MS やかがやきルーム指導員が生徒と接する中で気づいたことを教育相談部会で共有し、その後の支援に役立てる。</li> <li>・地域コーディネーターや学校支援員等の地域人材との連携を図り、より効果的な学校教育を具現化する。</li> </ul>
<p>A 20 学校は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 評価項目 A 20 の教職員の肯定的回答が 80%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・会議のペーパーレス化、一斉メール配信による連絡の徹底など、効率化を意識した業務の改善を行う。</li> <li>・行事の見直しや校務分掌の再編成に取り組む。</li> <li>・各分掌の計画の段階から業務改善の視点を盛り込む。</li> </ul>	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員の肯定的回答は 64.62%であり、数値指標を下回った。昨年度の 79.2%と比較すると肯定的回答が減少した。</li> </ul> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークライフバランスの視点に立って、「新しい生活様式」にも合致するバランスの良い年間指導計画を立てる。</li> <li>・PDCA サイクルに基づき行事の見直しや校務分掌の再編成に取り組む。</li> <li>・ノー残業デーを設定し、教職員の意識の涵養を図る</li> </ul>
<p>A 21 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。</p> <p>【数値指標】 評価項目 A 21 の教職員の肯定的回答が 80%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒会を中心に合同のあいさつ運動を行ったり、ボランティア活動で交流したりすることにより、生徒の地域学校園の一員であるという意識を高める。</li> <li>・各教科において小中連携を意識した一貫性のある授業実践を行うために教科ごとに学習の PDCA サイクルを確立し、カリキュラムマネジメントの実現を図る。</li> <li>・学んだ知識や技能を活用する学習活動を意図的に実施し、思考力・判断力の育成を図る。</li> </ul>	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員の肯定的回答は 93.8%であり、数値指標を上回っている。しかし保護者及び生徒の肯定的回答は昨年度よりも減少した。</li> </ul> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒会を中心に行っている合同あいさつ運動やボランティア活動での交流を、校内の掲示板等を利用して生徒へ積極的に情報発信していく。</li> <li>・生徒会朝会や校内放送等を利用して、活動の実績報告やボランティアの募集等を行い生徒に積極的に情報の発信を行う。</li> </ul>
<p>A 22 学校は、地域の教育力を生かした特色ある教育活動を展開している。</p> <p>【数値指標】 評価項目 A 22 の教職員の肯定的回答が 80%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校に隣接するコミセンを放課後の学習支援の会場とし、地域の講師が生徒に勉強を教える体制を作る。</li> <li>・地域協議会が中心となって地域の人材を募集し、図書館やバラ園などの環境整備ボランティアに参加する体制を作る。</li> <li>・生徒会と地域協議会との意見交換会を実施し、地域について考える機会を作る。</li> </ul>	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員の肯定的回答は 100%であり、数値指標を上回っている。しかし保護者及び生徒の肯定的回答は昨年度よりも下降した。</li> </ul> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・五若コミュニティセンターでの地域未来塾（学習支援）をさらに充実させ、より地域主体で運営できるようにする。</li> </ul>

<p>A23 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、よりよい生徒の育成に取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 評価項目A23の教職員と地域住民の肯定的回答がともに80%以上</p>	<p>・若松原中学校地域協議会との連携を図ることを通して、地域の教育力を学校教育活動に生かせる場を設けていく。</p> <p>・地域や企業に本校の実態についての情報を積極的に発信することなどを通して、連携を深め、1年生の「働く人に学ぶ」、2年生の「社会体験学習」において、より効果的な学習が展開できるように努力していく。</p>	<p>B</p>	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>肯定的回答が教職員、地域住民ともに100%で数値指標の80%をどちらも上回っている。</li> </ul> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>次年度も各種便りを積極的に活用するとともにホームページについては更新間隔をできるだけ短くし、保護者・地域住民への最新情報の発信に努める。</li> </ul>
<p>A24 学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。</p> <p>【数値指標】 評価項目A24の保護者と地域住民の肯定的回答がともに80%以上</p>	<p>・施設の老朽化が進み、修繕が必要な箇所が多数あるため、生徒の安全を第一に考えながら、市教委と連絡を密にし、計画的に修繕を進めていく。</p> <p>・毎月の安全点検を生徒と一緒にを行い、安全な学習環境をつくるとともに、生活安全に対する関心を高める。</p>	<p>B</p>	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>保護者の肯定的回答は88.1%、地域は86.7%で数値指標の85.0%を上回っており、教職員による肯定率は100%であった。また、保護者・地域住民共に昨年度を上回っている。</li> </ul> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>毎月の安全点検を含め、修理が必要な個所の報告・連絡を密にして計画的に修繕を進めていく。</li> </ul>
<p>A25 学校は、学習に必要なICT機器や図書等を整えている。</p> <p>【数値指標】 評価項目A10A25の教職員の肯定的回答が80%以上</p>	<p>・情報担当者の責任のもと、ICT機器の一括管理を行い、各教科の学習に必要なICT機器（タブレット型端末、デジタル教科書、デジタルカメラ等）の整備を行い、併せて教職員への周知を図る。</p> <p>・図書館教育担当者が授業に使える図書の希望をとり、図書の充実を図る。</p>	<p>A</p>	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>教職員の肯定的回答は81.3%で数値指標を上回っている。昨年比で26.0ポイント上昇した。</li> </ul> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>全生徒へのICT端末の配備を機会に、機器の活用方法を周知し、積極的な利用を促す。</li> <li>教科学習や総合的な学習に時間に図書を利用してもらう機会が増えるよう積極的に働きかける。</li> </ul>
<p>B1 読書の習慣化を図り、心豊かな生徒を育成する。</p> <p>【数値指標】 評価項目B1の生徒の肯定的回答が80%以上</p>	<p>・学校図書館、学級文庫の整備を進めるとともに、「図書だより」や掲示物を活用して良書を積極的に紹介する。また、年間を通して計画的に朝の読書を実践する。</p> <p>・読書推進活動を強化するとともに、家庭でも読書時間の確保などの協力を仰ぎながら、読書意欲の向上につなげる。</p>	<p>B</p>	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生徒の肯定割合は73.9%で、数値指標80%を下回った。</li> </ul> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学校司書の協力を得ながら、図書委員会の活動を活性化させ、ブックトークやビブリオバトルを実施するなどの方法で、読書への意欲を喚起する。</li> <li>読書週間や学校図書館のPR活動を充実させ、読書に向かう環境を整える。</li> </ul>
<p>B2 生徒は、毎日朝ごはんを食べている。</p> <p>【数値指標】 評価項目B2の生徒の肯定的回答90%以上</p>	<p>・朝ごはんを食べることによる学習面や生活面への効果を科学的に指導するとともに、各家庭への理解と協力を引き続きお願いしていく。</p> <p>○地域学校園としてお弁当の日を通して小学校から食への意識を高めていくことも実施する。</p>	<p>B</p>	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生徒の肯定的回答は、92.5%で、数値指標を上回っている。また、教職員・保護者・地域・生徒共に昨年度を上回っており、地域住民の項目は100%であった。</li> </ul> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>食育だよりを通して食に関する各家庭への理解と協力をお願いする。</li> <li>地域学校園を通して小中一貫した食への指導の意識を高めていく。</li> </ul>

本校の特色・課題等	<p>B3 チャイムを守って授業にのぞんでいる。</p> <p>【数値指標】 評価項目B3の生徒の肯定的回答が85%以上</p>	<p>・時間を守ることの大切さを教師自ら率先垂範し、生徒の意識を高めていく。</p> <p>・各クラスのリーダーに働きかけ、「5分前行動」「2分前着席」の呼びかけを行い、時間を守るムードの醸成を図る。</p>	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の肯定的回答は81.1%で、数値指標をやや下回っている。教職員も昨年度より8.7ポイント下降した。</li> </ul> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・年度初めの5月までに「チャイム着席」を学習目標に設定、教職員が同一歩調で指導に当たり、習慣化を図る。</li> <li>・次時の授業担当教員と学級委員長が連携し教室の様子を見て適切な声掛けをする。</li> <li>・「立腰」を継続し、午後の授業におけるチャイム着席を定着させる。</li> </ul>
	<p>B4 居がいのある学校づくりのひとつとして生徒主体の学校行事に向け改善を図る。</p> <p>【数値指標】 評価項目B4の生徒の肯定的回答が90%以上</p>	<p>・生徒が達成感を得られるよう、計画的な準備と細かな点にも配慮された指導を心がける。</p> <p>・「生徒の生徒による生徒のための」学校行事となるよう、教職員が共通理解を図り、生徒の自主的な活動を促すことで、生徒の自尊感情の育成や他者理解を意図的に推進する。</p>	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の肯定的回答は96.5%で、数値指標を大きく上回っている。また、教職員、地域住民ともに100%と高い評価を得た。</li> </ul> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・文化祭・体育祭だけでなく様々な学校行事の実施やその準備、また、生徒会活動に多くの生徒が関わられるように計画を立てる。</li> </ul>
	<p>B5 生徒は、地域でのボランティア活動や行事に参加している。</p> <p>【数値指標】 評価項目B5の教職員の肯定的回答が85%以上</p>	<p>・生徒会で企画運営を行う地域のクリーン活動を行い、ボランティア精神を育てる。</p> <p>・地域の行事のポスターを貼って紹介するなどPR活動によって参加を促す。</p> <p>・ボランティア委員会でボランティアカードを作成し、意欲を高める。</p>	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員の肯定的回答が80.4%で数値指標の85%を下回った。</li> </ul> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・リトルクリーンや募金、地域ボランティアなど、すでに生徒が行っているボランティアが地域に貢献しているという実感を抱かせるような指導まで行うことが重要である。生徒会朝会の機会を使って、ボランティアの成果を周知する。</li> </ul>

### 〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所の下線を付ける。

#### ☆アンケートから概ね良好と考えられること

- ・数値指標を上回った項目は、以下の24項目であった。  
(A1) (A2) (A3) (A4) (A5) (A6) (A7) (A8) (A10) (A11) (A13) (A14) (A15) (A16) (A17) (A18) (A19) (A21) (A22) (A23) (A24) (A2) (B2) (B4)
- ・「教職員・保護者・地域住民・生徒の全てで肯定的回答が80%を超えている項目」は以下のように9項目であった。  
(A1) (A2) (A4) (A6) (A7) (A8) (A11) (B2) (B4)
- ・「教職員・保護者・地域住民・生徒の全てで肯定的回答が昨年より上昇した項目」は以下のように10項目であった。  
(A1) (A2) (A10) (A11) (A12) (A13) (A14) (A16) (A25) (B2)
- ・(A9) (A12) については、教職員の肯定的回答が昨年度と比較してそれぞれ20.9ポイント、39.0ポイント上昇するなど顕著な成果が現れた。

#### ★アンケートから課題と考えられること

- ・数値指標を下回った項目は、以下の6項目であった。  
(A9) (A12) (A20) (B1) (B3) (B5)
- ・「評価者の中でいずれかの肯定的回答が70%未満の項目」は以下の通り8項目あった。  
(A9) 児童生徒は、宇都宮の良さを知っている。(教職員) (保護者)  
(A10) 児童生徒は、ICT機器や図書等を学習に活用している。(保護者) (生徒)  
(A12) 児童生徒は、「持続可能な社会」について、関心をもっている。(教職員) (生徒)  
(A20) 学校は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。(教職員)
- (A21) 学校は、「小中一貫・地域学校園」の取り組みを行っている。(生徒)

(A25) 学校は、学習に必要な I C T 機器や図書等を整えている。(保護者)(生徒)

(B1) 生徒は、本(読書)が好きになった。(保護者)

(B5) 生徒は、地域でのボランティア活動や行事に参加している。(保護者)

## 7 学校関係者評価

- ・コロナ禍の中、大変ご苦労されていることと拝察いたします。今後とも地域の子ども達をよろしくお願いします。
- ・登下校中の生徒の元気な姿を見ると、励まされる。アンケートでは、全体的に評価は上がっており、良い傾向である。
- ・(A10)、(A25)「ICT 機器の活用」、(A14)「いじめ対策」項目等における教職員と保護者の間の回答(認識)の差について精査していただきたい
- ・(A9)「宇都宮の良さ」項目における肯定的回答が昨年よりは高くなっているが、まだまだ低いのではないかと。
- ・取組の結果として昨年度より5ポイント以上上昇している項目が多くあり、良い傾向である。反面、(A10)が、5ポイント以上下降していることが残念である。
- ・(A21)(B5)は、コロナ禍で活動が制限されてしまったことが原因であろう。昨年度は活動できていたことで満足度が高かったであろう。
- ・(A20)に関して、どの職場でもワークライフバランスについて言われるが、なかなか難しい課題である。コロナ禍で仕事が増えることもあると思うが、新しい生活様式に慣れて、次年度は上昇することを期待する。
- ・(A14)(A15)について、教職員の評価が100%に対し、数%の生徒が否定していることが気になる。全体でみれば高い評価であるが、数%の生徒は寂しい・不安な思いがあるかもしれない。現場の教師にしか気づけないこともある。忙しいとは思いますが、生徒の変化に気づけるよう、事務的作業の簡略化などの対策をお願いしたい。
- ・生徒は身近な項目については肯定的な意見が多いが、(A12)(A21)など、抽象的な項目に対する理解において肯定感が低いように思われる。次年度の方針にあるように、学校として積極的に取り組んでほしい。
- ・(A4)に関して、教職員と地域住民で肯定的回答が下降しているが、生徒は上昇している。学校内ではあいさつしているが、学校外でのあいさつに改善の余地があると感じた。地域住民として大人も積極的に生徒に対してあいさつするなど、意識を向上させる必要があると感じた。
- ・(A4)に関しては、小学校も同様に教職員の肯定的回答が低い。次年度は中学生との交流や地域への働きかけを同時期に行うなど、地域学校園内での関わり、つながりの工夫を望む。

## 8 まとめと次年度へ向けて(学校関係者評価を受けて)

- ・学校評価について、生徒・保護者・地域住民の多くの方々から回答をいただいた。今年度は、昨年度のアンケート内容の大幅変更から2年目となり、前年度の学校評価の結果と比較することができた。昨年度以前から継続している項目については、目標値を少しずつ高め設定し、その達成に向け改善を進めてきた。その結果、全30項目中、24項目で目標を達成することができるなど、全体的には良好であったと考える。しかしその反面、目標数値をクリアできなかった項目があった。また、自由記述の中には厳しいご意見もあり、それらについては期待の表れとして捉え、教職員一同、課題の改善に向けて努力していきたい。
- ・(A4)「あいさつ」項目に関しては、あいさつをすることの意義等について教職員・生徒ともに共通理解をすすめる、よりよいあいさつの仕方について考えさせていきたい。
- ・「(A9) 児童生徒は、宇都宮の良さを知っている。」項目に関しては、教職員自身が宇都宮市の良さを学ぶとともに、総合的な学習の時間の「宇都宮学」を継続して実施する。また、社会科を始め、各教科学習において宇都宮に関する話題を提供し宇都宮の良さを発見する機会を作るなど、積極的に推進していきたい。
- ・「(A10)(A25) 児童生徒は、I C T 機器や図書等を学習に活用している。」項目に関しては、G I G A スクール構想の推進を踏まえ、全生徒への I C T 端末の配備を機会に、機器の活用方法を周知し、積極的な利用を促すとともに、研修機会を充実し、効果的な活用方法について模索していきたい。
- ・「(A12) 児童生徒は、『持続可能な社会』について、関心をもっている。」項目に関しては、総合的な学習の時間を中心に、社会科、国語科、理科、保健体育、技術家庭科などの教科学習においても「持続可能な社会」について取り上げ、考えさせたり議論させたりする機会を作るなど、S D G s 等に係る現代的な諸課題に対応していくための資質・能力の育成に努めたい。
- ・全体として、学校としてこれまで以上に諸活動に誠意をもって取り組むことと同時に、学校の取組や現状をいかに保護者に正確に伝え、理解を得るかという点についても何らかの対策を講じていく。